



JANSI ニュースレター

Vol.6(2014年夏) JANSI アニュアル・カンファレンス特集号

お問合せ先

原子力安全推進協会 業務部

広報グループ

TEL : 03-5418-9312

FAX : 03-5440-3606

e-mail:newsletter@genanshin.jp

公開HP:<http://www.genanshin.jp/>

JANSI アニュアル・カンファレンス2014の開催について

4月24日(木)、千代田区内幸町のイイノホールにおいて、国内外の専門家を招きJANSI Annual Conference 2014 for Step up を開催いたしました。主催者として松浦代表、来賓としてリガルドWANO

議長、八木誠電事連会長の挨拶、ノンフィクション作家の門田隆将氏の「原発事故は日本人に何を聞いたのか」と題した招待講演に引き続き、以下の講演や議論が行われました。



①自主的安全性向上の考え方と過酷事故対策の状況

まずチェコ原子力研究所副社長のミシャク氏より炉心溶融が発生した際の緩和対策に関する説明があり、炉心溶融物の安定化の重要性が強調されました。

続いて、JANSI倉田執行役員より現在進行中の安全性向上活動として、①「事業者自主の安全評価書の整備・運用」、②「良好事例との比較による安全性向上策の整備」の2点に対するJANSIの支援について説明しました。

ミシャク氏は、この活動を「非常に良いと思う」と評価した上で、国際的な規格との調和、他国との協力・連携を継続するよう促すとともに、過酷事故対策だけでなく、通常運転時の安全対策や安全文化醸成の重要性を強調されました。

②安全性向上のためのリスク情報の活用

まず、ローレンス・バークレイ国立研究所研究員のバドニツッ氏より米国における確率論的リスク評価(PRA)が「まだ規制の根幹を担うものになっていない」としつつも、NRCが自らの規制評価のために活用する等、位置付けに変化があるとの紹介がなされました。

続いて、倉田執行役員より我が国ではPRAを含むリスク情報の活用が海外から大きく遅れており、JANSIは体制の整備、人材育成、品質確保の支援を実施しているとの説明をいただきました。

バドニツッ氏からは、JANSIの取組みを評価しつつも、事業者幹部の啓蒙が課題であること、人材育成には時間を要することを認識する必要があるとのアドバイスをいただきました。

③ピアレビューによる安全性向上

まず、JANSI大部執行役員より、ピアレビューの役割は、①「事業者の安全性向上活動の評価」、②「事業者トップがピアレビューによる改善にコミットする仕組みを作ること」と説明した上で、昨年度には3発電所でピアレビュー、1発電所でフォローアップレビューを行ったことを紹介し、ピアレビュー結果を発電所の安全性向上に結び付ける事業者の活動が着実に進み始めている状況について説明を行いました。

続いて、昨年度にJANSIピアレビューを受けた3社の代表から今後の取組みへの決意が述べられました。また、今後のJANSIピアレビューに対して、次のような要望事項をいただきました。

- ・我が国の実態に即したエクセレンスの基準を模索・構築してほしい。
- ・共通的で大きな課題があれば、深堀り出来るよう工夫願いたい。
- ・日本的な良さとして守るべきものを良好事例としてしっかり発掘し、紹介してもらいたい… 等々

最後に、INPO国際部門Directorのスピナー氏より、JANSIの成功には、①「事業者CEOのコミット」、②「原子力安全第一の徹底」、③「事業者のサポート」、④「説明責任」、⑤「独立性の確保」が重要との助言をいただきました。



④安全性向上を支えるリーダーシッププログラムの構築

JANSI久郷理事より、福島第一事故を2度と起こさないための基盤作りを進めるために、事業者自らが安全性向上に取り組み、常にこれで良いか問い合わせ、気付きの機会を作り出す経営層から管理者層に至るリーダーシップ研修のプログラムを組み立てていると説明を行いました。

これに対し、日本総研理事の鈴木氏より、リスク対策教育は、未来を想像できる人材を育成することであり、リスクの感性、認知力、分析力、コミュニケーション力が組織内の全員に備わるようプログラムを構築して欲しいとのアドバイスをいただきました。

⑤原子力施設の防災対策への支援

まず、JANSI本田執行役員より、防災訓練の重要性と事業者への支援として①「防災訓練ガイドラインの制定」、②「防災訓練検討委員会の運営」、③「研修会、セミナー等の開催、調査報告」の取組みについて紹介しました。更に、今後の支援活動として、「専門家等による支援訪問」、「連絡代表者を窓口とした効果的な支援」、「他機関との連携」の計画について説明を行いました。

続いて、防災訓練検討委員会の委員であり、横浜国大教授の野口氏より、訓練目的の明確化、弱点を補完するため訓練を体系化することに加え、行政と事業者との連携が必要とのアドバイスをいただきました。

6福島第一原子力発電所事故の教訓に学ぶ

まず、JANSI中野執行役員より、JANSIの教訓反映タスクチームでは、福島第一事故に関する10の報告書を分析し、その中から約350の教訓を抽出し、これを集約・整理した上で、各事業者の実施状況を横並びで表にまとめたこと、この表により各事業者へのピアプレッシャーが有効に働き、他社の良好事例を水平展開として取り入れることを促進できたとの説明を行いました。

続いて、東電原子力設備管理部長の川村氏より、自身の経験を踏まえて、①「防災訓練で事前に十分な準備を行うこと」、②「衛生面でのリスク管理やメンタルヘルス管理も非常に重要」、③「緊急時にいかに最大の力を引き出すかとの視点が欠かせない」とのアドバイスと、JANSIとともにエクセレンスを求めたいとの励ましをいただきました。



ファシリテーターの岡本教授[東大](左端)とパネリストの山口教授[阪大]、ナ氏[韓水原]、W.エプスタイン氏(Lloyd's Register Japan)、呉氏[台湾電力]及びJANSIの倉田執行役員(左側より)



関連HP <http://www.genanshin.jp/news/20140424.html>
http://www.genanshin.jp/news/data/annconf_abstract_20140424.pdf
http://www.genanshin.jp/report/annualconference/data/qa_public_2014.pdf

原子力規制委員会との意見交換の実施

平成26年4月22日(火)、原子力規制委員会(田中委員長、更田委員、大島委員他)とJANSI(松浦代表、藤江理事長他)との間で意見交換を行いました。

JANSIより安全性向上に向けた取り組み等について説明した後、原子力規制委員会とJANSIとの間の安全性向上に関する情報共有の重要性等についての意見交換を行いました。



関連HP <http://www.nsr.go.jp/committee/other/20140422.html> <http://www.genanshin.jp/news/20140422.html>

JANSI 5カ年計画2013-2017について

JANSIは、福島第一事故のような原子力事故を二度と起こしてはならないという原子力産業界の総意に基づき発足しました。JANSIには、出来るだけ早期に事業者の安全性向上活動を牽引する実効的な仕組みを構築するよう強い期待が寄せられています。

5カ年計画は、そうした期待に応えるため、米国の原子力発電運転協会を参考に、原子力施設の安全性と信頼性の向上に取組み、遅くとも5年後までにJANSIのすべての活動を本格的な軌道に乗せることを目標にしています。



関連HP <http://www.genanshin.jp/association/data/5yearplan2013-2017.pdf>

第2回 原子力防災訓練発表会の開催について

6月16日(月)、17日(火)の両日、原子力事業者の実施する原子力防災訓練の実効性向上を目的として、最近実施した訓練についての発表会を開催しました。

各原子力事業者が訓練実施に当たって苦労した点や工夫した点について互いに紹介し合い、質疑応答を通じて、先進事例の共有、課題解決の糸口を掴んでいただきました。

2回目となる今回の発表会には全国の原子力発電所、本店等の防災関係者に加え、原子力防災訓練検討会の防災専門家、燃料加工メーカーから約80名が参加し、活発な情報交換が行われました。



第1回 国際アドバイザリー委員会の開催について

JANSIの経営全般についてのご意見を頂くため、4名の国際アドバイザリー委員が一堂に会し、第1回目の委員会を4月25日(金)に開催しました。JANSIの果たすべき役割や今後の活動の方向性等に関して、いただいたご意見を今後のJANSIの運営に活かしてまいります。



関連HP <http://www.genanshin.jp/news/20140425.html>

